

意見募集の結果と対応状況（案）

〔「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」提言（案）に対して〕

1. 実施期間及び方法

- ・実施期間：平成17年2月17日（木）～平成17年3月2日（水）
- ・実施方法：報道発表による広報、国土交通省及び（財）関西文化学術研究都市推進機構のホームページへの掲載によって周知を図り、広く意見を募集。また、国土交通省、（財）関西文化学術研究都市推進機構、けいはんなプラザの窓口で提言（案）等を配布。
関係3府県6市町及び学研都市内の80の立地機関、（社）関西経済連合会に提言（案）を送付し、意見を募集。
- ・受付方法：電子メール・FAX・郵送

2. 寄せられた意見数

【意見提出者数】

27（名・機関）

一	般	：	15名
	立地機関	：	4名
	行 政	：	6機関
	そ の 他	：	2名

【意見数】

79件

なお、受付終了後にいただきましたご意見については集計をしますが、今後の参考とさせていただきます。

意見の分類と対応策

1) 提言(案)への反映を行ったもの

提言(案)(意見募集時)該当箇所	意見概要	対応策	資料3の修正番号	
学研都市における現状の課題と新たな時代変化に関する記述	2.学研都市の課題と新たな時代変化	行政間、立地機関間、市民との交流による連携など、各主体間の連携には、都市内外も視野に入れるべきであり、「行政間、立地機関間での相互の連携、さらには市民も含めた各主体間や都市域内外の連携が・・・」と修正すべき。	ご指摘を踏まえ、「都市域内外における連携が」と修正します。	[1] P 2
	2.2-1(4)大都市連絡道路、都市内連絡道路のネットワーク形成について	クラスター間の道路がないわけではないので「道路がない」という記述は修正すべき。	ご指摘を踏まえ、「未整備なため」と修正します。	[2] P 4
学術研究に関する取り組みの方向性	3(1) 近畿リサーチ・コンプレックスの中核として、研究開発プロジェクトの推進	のタイトルに「 <u>独創的研究の育成</u> 」を追加する。 の末尾に「また独創的研究を生み、これを育てるのに必要な自由で創造的な雰囲気都市全体で醸成することもありリサーチコンプレックスの中核要件として意識されるべきである。」を追加すべき。	ご指摘を踏まえ、3(1) のタイトルに「 <u>独創的な研究の育成</u> 」を追加するとともに、3(1) の末尾にご意見の主旨を追加します。	[3] P 7
学術研究と生産機能の一体化、産学官連携に向けた取り組みの方向性	3(2) 地域の特性に応じた研究開発型産業施設・生産施設の立地促進	他のサイエンスパークとの違いを示すために、基礎研究重視という言葉を残すべき。	研究開発スタイルの変化により、基礎研究、応用研究、実用化研究が同時並行的に進められる傾向にあり、基礎研究のみならず基礎研究以外も重視すべきであると考えます。そこで、3(2) で「文化学術研究施設」を追加記述します。	[4] P 7 ~ P 8
	3(2) 大学間のネットワークを核とした産学官連携の強化	「大学が産学官連携の核として、 <u>求心的な役割を担ってきている</u> 」と修正すべき。	ご指摘のとおり修正します。	[5] P 8
新たな文化の創造に向けた取り組みの方向性	3(3)学研都市発の新たな文化の創造	クラスター間で各々の独自性を尊重した交流会などを開催し、学研都市としての総合力を高めることを提案。	ご指摘を踏まえ、3(5) に「文化学術研究のための交流施設」を追加記述します。ご提案については、今後、サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で参考にさせていただきたいと思えます。	[6] P 1 1

国際都市への展開に向けた取り組みの方向性	3(4) アジア地域を中心に世界各国との交流連携を目指して	国際研究開発拠点の形成など、関西文化学術研究都市の国際戦略に係る基本的な方向性を定めることが必要。	ご指摘を踏まえ、3(4)に、「国際的な研究開発拠点としての機能を高め」を追加記述します。具体策については今後、サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で参考にさせていただきたいと思います。	[7] P10
多彩で魅力的な創造都市への取り組みに向けた方向性	3(5) 多様で魅力ある都市の形成	「最先端の科学技術、人文・社会科学に身近に接しつつ」について、「最先端の <u>学術研究</u> に身近に接しつつ」と修正すべき。	ご指摘を踏まえ、「 <u>文化学術研究</u> 」と修正します。	[8] P11
	3(5) 市民と研究機関等との交流を通じた学研都市としての一体化	オータムフェスタはこれまでも実施されているので、「 <u>引き続き</u> 」との加筆が必要。	ご指摘を踏まえ、3(3)で「 <u>今後ともこれらの事業の一層の促進</u> 」と修正します。	[9] P9
	3(5) 賑わいのある拠点地区の形成と景観・自然環境への配慮	里山環境の保全や自然環境との共生を具体的に進めるにあたり、「 <u>里山環境の保全や自然環境との共生を目指した新たな取り組みが必要である</u> 」と修正すべき。	ご指摘を踏まえ、3(5)を修正します。	[10] P11
基盤整備のスピードアップに向けた取り組みの方向性	3(6) 関西国際空港等へアクセスする道路、各クラスター(地区)間を連絡する道路の早期整備	高山第2工区内の道路は区画整理により整備するため、「特にクラスター(地区)開発が未整備であるため、道路が分断されている、山手幹線、けいはんな中央線については、クラスター(地区)開発に先行した早期整備や代替道路の整備を行い、」という記述を削除すべき。	ご意見の主旨を踏まえ、「特にクラスター(地区)開発が未整備であるため、道路が分断されている道路については、早期の全線整備が不可欠である。そこで、クラスター(地区)開発に先行した早期整備や代替道路の整備 <u>方策も検討し、</u> 」と修正します。	[11] P13
		高山、精華・西木津、京田辺間の交通網の緊急整備が必要。「天神山線」、「木津川架橋」の記述を追加すべき。	学研都市内の個別具体の道路事業などに関するご意見については、今後サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で参考にさせていただきたいと思います。そのため、提言(案)ではむしろ例示で挙げたものも含めて削除します。	[12] P13
	3(6) 鉄道、バスの輸送力の強化、利便性の向上	祝園駅周辺の整備については、工事が長期間に渡っており、早急な整備が必要。	学研都市内の個別具体の駅前広場整備などについては、今後、サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で参考にさせていただきたいと思います。そのため、提言(案)ではむしろ例示で挙げたものも含めて削除します。	[13] P13

<p>基盤整備のスピードアップに向けた取り組みの方向性（つづき）</p>	<p>3（6） 事業中のクラスター（地区）の整備促進</p>	<p>事業中のクラスター（地区）についても、「社会経済情勢やニーズを勘案した上、土地利用のあり方について検討する」旨を追加すべき。 「木津北・東地区について学研に相応しい土地利用を図る」ことが必要。 計画・構想中のクラスターの方向性を示すことが必要。 事業中のクラスター（地区）の整備促進について、近く事業着手予定の清滝・室池地区を追加すべき。 未着手区域の開発については一時凍結が必要。（2件） 南田辺西地区、南田辺東地区、普賢寺地区の整備促進が必要。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、3（6）に追加記述します。本提言（案）は、学研都市全体に係る基本的方向性を示すものです。 提言（案）3（6）は、現在事業中のクラスター（地区）について、当初計画通りの進捗となっていないため、その促進の必要性を改めて記述したものです。なお、未着手地区の取り扱いについては、提言（案）3（6）にある通り、社会経済情勢やニーズ、事業主体など前提となる多くの条件整理を行い、今後のあり方について検討する必要があると考えます。</p>	<p>[14] P 1 2</p>
<p>都市運営に向けた取り組みの方向性</p>	<p>3（7）本格的な都市活動を支える「都市の運営」の展開</p>	<p>「都市の建設」が全く無くなる感があるため、都市の建設」への対応のみならず、と修正すべき。（2件）</p>	<p>ご指摘を踏まえ、3（7）を修正します。</p>	<p>[15] P 1 4</p>
	<p>3（7）広域的な都市の課題に対応した体制の確立</p>	<p>広域的な都市の課題への対応は、3府県等の行政機関だけで解決できない。「国・都市再生機構・民間事業者等」も明記すべき。（3件）</p>	<p>提言（案）では、産官学の各機関と市民が参画し近畿全体で学研都市を支える体制が必要であると記述しており、その上で3府県にまたがる地域行政的課題については行政機関の主体的な取り組みが必要と考えます。そこで、内容を分かりやすくするためこれらの記述を3（7）に一つにまとめます。</p>	<p>[16] P 1 4</p>
	<p>3（7）近畿全体で学研都市を支える体制の確立</p>	<p>一元的な都市運営体制の将来像を提案し、住民参画のもと早急に整備に向けた検討をすべき。</p>	<p>また、ご指摘を踏まえ、3（7）で「（財）関西文化学術研究都市推進機構を中心に」を削除し、「国の協力を得ながら」と追加記述します。</p>	<p>[17] P 1 4</p>
<p>サード・ステージ・プランに向けて</p>	<p>4 サード・ステージ・プランの策定にあたって</p>	<p>自治体の参画方法について明確にすることが必要。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、「関係自治体や都市再生機構などの参画も得て」と修正します。</p>	<p>[18] P 1 5</p>
		<p>プランの実効性を確保するため、「各施策の実施主体や役割分担、スケジュールを明確に」すべき。（2件）</p>	<p>ご指摘を踏まえ、修正します。スケジュールのご指摘については今後、サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で参考にさせていただきたいと思います。</p>	<p>[19] P 1 5</p>

2) その他の意見等に関する対応方針

個別具体の施策等に関する意見など } (対応方針) 今後、サード・ステージ・プランを検討するにあたって関係機関で
 新たな施策の提案や要望など 参考にしていただきたいと思います。

	意見概要	備 考
<学研都市としての 総合力の強化>	総合力の発揮について、各研究機関の交流推進機能が弱い。	各研究機関の連携を進め、総合力を強化することについては提言(案)3(1)に記載しています。
	交通が不便で車利用のため、研究者同士の交流がないことが課題。	
	学研都市が木津駅、祝園駅から離れ、孤立している。	
	首都機能をバックアップする「副首都」機能を学研都市に建設し、総合力をアップさせることを提案。	
<学術研究の推進>	公的研究機関の成果を積極的に拡大・発展させるため、実践する機関の設立が必要。	公的研究機関としては、(財)国際高等研究所、(財)地球環境産業技術研究機構、独立行政法人情報通信研究機構などがあります。
	科学技術、産業施策に係る中核的プロジェクトの誘致など、新たな文化学術研究機能の集積を図る必要。	現在、知的クラスター創成事業等のプロジェクトが推進されていますが、今後とも科学技術、産業施策に係るプロジェクトの誘致や新たな文化学術研究機能の集積に努めていく必要があると考えます。
	施設建設にあたり、排水データの毎週提出や、リサイクルの廃熱処理場がないなどの制約があり、施設誘致に支障があった。 立地促進のために、リサイクルの廃熱処理場が必要。	研究開発型産業施設・生産施設の立地促進と誘致活動の展開については、提言(案)3(2)に記載しています。
	基礎研究のための施設設置・研究については国の特別な支援が必要。	文化学術研究活動に対する国の支援は現在でも行われています。例えば、施設設置については様々な税制支援、融資制度があり、また、知的クラスター創成事業に対しては補助金が交付されます。今後とも所要の支援を求めていく必要があるのはご指摘の通りです。
	学研都市内の大学間の連携を基軸とした各セクター間の人的連携が必要。 具体的な施策として、大学間での学生受入などの人的連携や大学による産学連携オフィスの共同運営などが必要。	産学官連携の強化については、提言(案)3(2)に記載しています。

<学術研究の推進> (つづき)	地球規模での環境問題、食糧問題、エネルギー問題の根本的解決に向けた新しい都市のあり方を示すパイロットモデル都市を目指すべき。	持続可能な社会の実現に向けた新たな研究分野での取り組みについては、提言(案)3(1)に記述しています。
	商業施設の誘致による賑わいではなく、学研都市として学術・文化の賑わいも必要。	
<産学官連携>	ベンチャービジネスの立地促進に向けた環境整備が必要。 学生、ベンチャービジネス、外国人研究者向けの宿泊兼研究活動施設が必要。	ベンチャービジネスの立地促進に向けた環境整備としては、京都府けいはんなベンチャーセンターや独立行政法人情報通信研究機構のオープンラボなどがあります。 同志社大学と奈良先端科学技術大学院大学にゲストハウス、(財)国際高等研究所に宿泊施設があります。
<文化の創造>	研究、行政、住民連携のためのNPO等の立上げが必要。	ご意見の主旨については、提言(案)3(3)で記述しています。
	日本及びアジアの伝統・歴史・芸能・宗教などの文化、文明を紹介し、説明できる施設の建設が必要。	
<外国人の 生活環境整備>	光台周辺について、道路標識、時刻表、ホテル看板の英文標記、公共交通機関の英語アナウンスが必要。	ご意見の主旨は、提言(案)3(4)2で記述しています。
	外国人向けのインターナショナルスクールの誘致が必要。 外国人の一時滞在に対する環境整備に重点をおくことが必要	ご意見の主旨は、提言(案)3(4)で記述しています。
<まちの 魅力づくり>	光台周辺の改善案として ・私立の小中高大学校、専門学校誘致が必要。 ・精華大通りのライトアップが必要。 ・モール形式の商店街が必要。 ・建築物について、学研都市のカラーの統一が必要。 ・電線の地中化が必要。	
	環境に重点をおいた都市づくりをすべき。	
	光台周辺の改善案として ・研究施設へのツアー、学研都市としてのお土産の販売、手軽に食事できるレストラン等の誘致、博物館、映画館、劇場等の誘致、二階建て観光バスの運行等が必要。	観光による都市の賑わいの創出や、地域の魅力づくりについては、提言(案)3(5)で記述しています。なお、お土産の販売等はすでに取り組みが行われています。
	種々のスポットを連絡したサイクリングコース等を設定し、全国大会、世界大会を開催すべき。	「けいはんなサイクルレース」が過去7回、「木津川マラソン」が過去22回開催されています。

<p><まちの魅力づくり>(つづき)</p>	<p>民間研究機関の施設の一般公開の実施が必要。</p>	<p>ご指摘については、提言(案)3(5) 「体験し学ぶ新たな観光」の推進として記述しています。</p>
	<p>地区活性化のため、駅周辺の充実、学研地区のPR、また、行政、施設代表、住民による「地区おこし」の検討が必要。</p>	<p>駅周辺の充実については、提言(案)3(6)、学研地区のPRは3(1) に記述しています。</p>
	<p>住宅地で最先端技術の実験が行われる都市になるよう踏み込んだ提案が必要。</p>	<p>ご意見の主旨は、提言(案)3(5) で記述しています。</p>
	<p>市民の生活環境に配慮した商業施設を立地すべき。(例えば、施設の外観や看板など)</p>	<p>景観、自然環境との共生については提言(案)3(5) で記述しています。また、提言(案)3(5) で、パイロット・モデル都市として環境等について実践的な取組みを行う必要があると記述しています。</p>
	<p>第1次産業(農業)との連携を模索すべき。</p>	<p>例えば、現在、京都府農業資源研究センターや京都府立大学農場において、京都府南部地域の特産物等の品種改良や栽培技術の向上に努めています。</p>
<p><インフラ整備(道路)></p>	<p>学研都市内連絡道路(特に奈良先端大~けいはんなプラザ間)の早期整備が必要。 第2名神高速道路の整備、特に第2京阪道路と京奈和自動車道間の早期完成による交通ネットワークが必要。</p>	<p>ご意見の主旨については、提言(案)3(6) で記述しています。</p>
	<p>精華台住宅地は山手幹線、国道24号の通り抜け道路となっており、迂回道路や自衛隊弾薬庫敷地の利用などの検討が必要。</p>	
<p><インフラ整備(公共交通)></p>	<p>光台周辺の改善案として、祝園駅から精華大通りまで路面電車を走らせる。「JR学研都市線・奈良線の複線化整備」の記述を追加する。(2件) けいはんな線の祝園駅までの延伸が必要。</p>	<p>ご意見の主旨については、提言(案)3(6) で記述しています。</p>
<p><インフラ整備(クラスター)></p>	<p>高山地区の早期開発の必要性を明確にすべき。 高山地区で、まだ造成されていない区域に残る里山の活用が必要。(4件) 里山を住民参加型のオープン・エコミュージアムとして保全すべき。</p>	<p>現在事業中の地区については、既に必要性が整理されているものと認識しています。 自然との共生等については、提言(案)3(5) で記述しています。</p>
	<p>事業展開促進の為、経済特区、社会特区等の制度の活用が必要。</p>	<p>現在、学研都市では知的特区が認定され、外国人研究者の受入れ促進事業等が行われています。</p>
	<p>「景観を阻害している未利用地」の内容が分かりにくい(豊かな雑木林も含まれるのか)。</p>	<p>未利用地は、開発済みのものを指し雑木林は該当しません。なお、景観に配慮した質の高い居住環境を形成することが必要であると考えます。</p>

<p>インフラ整備 <(クラスター)> (つづき)</p>	<p>粕田地区について、一日も早く整備を進め町の活性化につなげることが必要。</p>	
	<p>地域内の低・未利用地については、研究施設用地ではなく商業用地への変更等も視野に入れた取り組みが必要。</p>	
<p><都市の運営></p>	<p>サード・ステージ・プランには、地域住民の意見も取り入れることが必要。</p>	
	<p>㈱けいはんなに、研究開発の企画調整をする人材確保が必要。</p>	
	<p>インフラ整備には国の強力な支援が必要。</p>	